

## 【小学校の部】優秀賞

# みんなに支えられて

豊後高田市立田染小学校 5年  
本田 夢羽

私はもやもや病という病気のため、左手・左足をうまく動かすことができません。生活する上でも大変なことがたくさんあります。

ふだんは家族や田染小のお友達が手伝ってくれるので、みんなにとっても感しゃしています。でも自分のことは自分でやりたいと思い、一年ほど前からリハビリをかねて、じゅう道やたっ球を習い始めました。

じゅう道ではかんとくがやさしくしてくれて、手と足を動かすのが私でもやさしく受け身を教えてくださいます。他の先生もやさしくわざを教えてくださいます。今では、らんどりもやらせてくれてとても楽しいです。

たっ球でもかんとくがすごくやさしくしてくれます。私は左手がうまく使えないので、サーブができませんでしたが、かんとくがサーブのコツを教えてくださいました。この前は、試合にも出してもらいました。サービスエースも取ることができたし、中学生から1セット取ることができました。試合には負けましたがとてもうれしかったです。

そんな中パラリンピックを初めて見ました。

大分県出身の中西まや選手は交通事故で足をなくしたそうですが、足のリハビリもかねて陸上を始めたと聞きました。実際にプレイしているのを見たら、義足なのにすごいスピードで走ってとてもはく力がありました。

私も左右の足の長さがちがうので、足底板という物をくつに入れてありますし、リハビリで運動を始めたので、中西選手と私は共通点があると思いました。がんばっている中西選手を見ていると、私もがんばろうという気持ちになれました。

たっ球では手足がない人でも工夫してサーブをしたり、つえをついている人でもすごく速い球を打ったりしてびっくりしました。

また道徳でも習った、車いすテニスの国枝選手は世界一をずっと続けてきていて、試合後の笑顔もステキでとてもかっこよかったです。両足がきかないのにどれだけがんばったのだろうと思いました。

私は、つい親の言うことを聞かなかったり、ウソをついてさぼったりしてしまいます。それでも私なりにがんばっていると思っていました。でもパラリンピックで私より障害がある人のプレイを見て、もっとがんばらなくてはいけないと思いました。

私もいつか、たっ球でパラリンピックに出たいと思っています。そしてやさしく時にきびしく教えてくださいました、じゅう道やたっ球の先生方、学校やチームの仲間たち、また家族におんがえしをしたいと思っています。